

代表 1

受 令和 5 年 2 月 21 日  
付 (午前)・午後 9 時 00 分

一般質問 (代表)・個人) 通告書

令和 5 年 2 月 21 日

尾張旭市議会議長 殿

市民クラブ

氏 名 早川八郎

尾張旭市議会会議規則第 50 条第 1 項の規定により 3 月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1 質問事項 13 件

2 質問方法

	1 回目 一括質問、一括答弁 再質問以降 質問事項 (大項目) ごとの一問一答
<input type="radio"/>	1 回目から 質問事項 (大項目) ごとの一問一答

↑ 選択する方法に○を付す。



質問事項 No. <u>1</u>	市長が目指す最重要課題について
要 旨	<p>市長所信表明の重点施策が6項目示され、今後の市政のかじ取りの決意を述べられた。その中に、京セラ創業者稲盛和夫氏の言葉を引用された「構想」「計画」「実行」において市民は、柴田市政の財政面に大きな期待を寄せていると思う。</p> <p>しかし、現在策定中の第六次総合計画においては、まだまだ財政力向上に踏み込んだ具体的な内容に欠けていると感じる。</p> <p>であるならば、企業人だった柴田市長の経験・人脈・発想等と本市の現状を鑑みると将来の尾張旭市の財政力向上が、最重要課題ではないかと感じる。</p> <p>そこで、尾張旭市のリーダーとして、目指す最重要課題について伺う。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. <u>2</u>	財政力向上のための保有地活用について
要 旨	<p>財政力向上のためには、新しいものを生み出すことも大切であるが、今あるものを有効的に活用することで、新たな財政力向上が期待できると考える。</p> <p>そこで、いつまでも保有地を眠らせておくのではなく、いち早く目を覚まさせ、その力を発揮させることが重要と考える。</p> <p>そこで、市長が思い描く保有地活用の未来像について伺う。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. <u>3</u>	少子超高齢化と人口減少について
要 旨	<p>所信表明の中にも、少子超高齢化と人口減少について「今ここにある危機」との言及があった。市長が掲げる「住みやすい街」「住みたい街」「やっぱり生まれ故郷に住みたい」という言葉の意味は、この解決の糸口ではないかと思う。</p> <p>そこで、この解決策としての具体的な考えについて伺う。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. <u>4</u>	若い世代に尾張旭市の住民になっていただくための支援について
	若い世代に尾張旭市の住民になっていただくための支援事業として様々なことが考えられるが、特に市長が考える具体的な支援について伺う。

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. <u>5</u>	自治会加入の未来の考え方について
要 旨	<p>自治会加入の未来については、どの自治体も大きな課題の一つと考える。 そこで、加入が減少することを懸念するのではなく、今加入していただいている市民の方が加入することで大きなメリットを得られる視点にもっと注目することが、将来の進むべき道と考える。</p> <p>加入に力を入れるのではなく、今加入している方の満足度を上げる考えについて伺う。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。



質問事項 No. <u>7</u>	マイナンバーカードと医療連携について
要 旨	<p>国はマイナンバーカードを普及させることで、身分証明書、健康保険証、オンラインでの行政手続等、様々な活用促進に動いている。</p> <p>そこで、本市が健康都市のトップランナーとしてこのマイナンバーカードを活用することで、医療との連携に大きく活躍できる具体的な考えはあるのかを伺う。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。





質問事項 No. <u>10</u>	遠隔授業とリアル授業のハイブリッド教育について
	<p>学校の授業は、1 クラスに1人以上の教員が、授業を受け持つのが当たり前のシステムとなっている。しかし、進学塾や企業の研修などでは、1人の講師の講義（授業）を様々な場所やシチュエーションにおいて受講している。これと同じような発想を学校教育に導入すると、1人の教員の授業を多くの児童生徒が一度に受けることができる。</p> <p>また、このことが確立されれば、教員の働き方改革にもつながると考える。ただ、何もかも遠隔授業にすることは得策ではないので、リアル授業も大切と考える。</p> <p>そこで、その二つを合わせ持ったハイブリッド授業の在り方が進めば、先に述べた働き方改革などにも期待できる。</p> <p>そのハイブリッドな教育改革についての見解を伺う。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. <u>11</u>	スタートアップの創業支援について
要 旨	<p>経済の発展は、本市においても重要な課題である。特に、所信表明でも述べられた、スタートアップの創業支援については、本市の新しい経済の力を生み出す重要な支援と考える。</p> <p>そこで、創業支援としての具体的な考えについて伺う。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項  No. <u>12</u>	スーパーメガリージョン構想について
	<p>現在建設中のリニア中央新幹線については、その開業によって、三大都市圏が約1時間で結ばれ、世界からヒト、モノ、カネ、情報を引きつけ、明るい未来が期待できる。</p> <p>こうした経緯を踏まえ、国・地方公共団体・経済団体の共通のビジョンの構築を図ることで、本市にも大きな発展へとつながるのではないかと感じます。</p> <p>そこで、この構想において、本市が何も関わらず、ただその行き先を見守るだけではもったいないと感じます。</p> <p>この構想について市長として、どのように行動し、本市に利益をもたらす考えがあるのかを伺う。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

質問事項 No. <u>13</u>	人工知能（A I）活用による行政サービスについて
	<p>人工知能（A I）技術を活用した業務サービスの提供は、様々な民間企業において開始されているが、企業のみならず、行政機関においてもA Iを活用した業務サービスを展開することへの期待が高まっている。</p> <p>そこで、業務の効率化、市民サービスの向上などA Iを活用した行政サービスを構築する考えについて伺う。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。